

茅ヶ崎西浜高等学校 令和7年度 入学式 式辞

草木の若々しい新緑が、雨が降るたびにのびやかに成長し、春を感じるようになつてきました。

PTA会長様のご列席および、保護者の皆様方のご臨席の下に、令和7年度茅ヶ崎西浜高等学校第46回入学式を挙行できますことは、私のみならず、本校職員の等しく喜びとするところでございます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校は皆さん入学を、心から歓迎いたします。

新しい高校生活の始まりに当たり、少しの不安と、大きな期待を持っている皆さんに、2つお話をします。

皆さんの高校生活を形作るのは、皆さんの日々の活動です。

その活動に先立つものは、どのように行動すべきか、という自分に対する問です。

例えば、自分とは何者なのだろうか、せっかく命を受けたのなら、何をすべきなのか、社会に対してどんなことで貢献できるのだろうか、という大きな問い合わせると思います。

また、高校生活を送る中で、自分の進路はどうしたらよいのだろうか、友達関係の中で、どのように行動すべきであろうか、というというもあると思います。

また、自分の周囲のこととして、社会課題に対して、どうあるべきか、自分は何ができるのか、ということも問い合わせの題材になります。

自らの問い合わせに対して、考えをまとめただけでは、結果に結びつきません。

そこで、行動することも必要になります。

自ら問い合わせ立て、自分なりの考えをまとめ、行動し、そして、自分なりの考えが妥当か検証します。

一方、自ら考え、出した方針に従って行動しても、必ずしも期待した結果になるとは限りません。

その場合には、方針を修正すればよいのです。

取り返しのつかない、またはしてはならない失敗でなければ、修正、再チャレンジすればよいのです。

その積み重ねが、皆さんの高校生活を形作って行きます。

次に、本校で大切にしていることに1つに、校歌の2番にある「気高さ」と「誇り」があります。

本校の教育目標には「気品と誇り」を掲げており、言葉は若干異なりますが、大切にしていることは同じことを表しています。

気高さを身に付け、誇りを持つことは容易ではありません。

しかし、実現不可能ではありません。

気高さを身に付け、誇りを持つためには、は外見だけ真似しても、すぐにその正体がわかつてしまいます。

気高さを身に付け、誇りを持つためには、自分の内面を磨き上げることが大切です。

内面を磨き上げたのち、その人の表面に、「気高さと誇り」が醸しだされるのです。

これから高校生活では、自分の内面を磨きあげてほしいと思います。

自分の内面を磨き上げるための一つの方法として、先ほどお話しした、常に自分に対する問を持ち、行動し続けることも大切です。

自分に対する問いを持ち、自分を磨き上げ、充実した高校生活を送り、「気高さと誇り」を備えた人に育ってほしいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様、本日はお子様のご入学おめでとうございます。

ここまで育ててこられたご尽力に対し心より敬意を表します。

本日から始まる、本校の教育活動に、温かいご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日入学した新入生の皆さんに、充実した高校生活を送れるよう、力を尽くしてまいります。

以上を持ちまして、入学式の式辞といたします。